

# 人工種苗の放流効果調査 1 (石見海域)

(栽培漁業事業化総合推進事業)

藤川裕司・若林英人・田中伸和

## 1 研究目的

石見海域において放流したマダイ、ヒラメ人工種苗の水揚量、水揚金額を堆定するための調査を行った。なお、本調査に係わる市場調査は、水産試験場、浜田水産事務所、松江水産事務所、水産振興課、水産振興協会が共同で実施した。

詳細は「平成 11 年度栽培漁業事業化総合推進事業マダイ、ヒラメ放流効果調査報告書」に報告したので、ここではその要旨について述べる。

## 2 研究方法と結果

### (1) マダイ

#### 放流実施状況

温泉津港沖に 159,006 尾、多伎町沖に 24,886 尾、湖陵町沖に 19,980 尾が放流された。

#### 調査方法

益田市漁協の定置網、釣り、刺網、地曳網、浜田市漁協の定置網、釣り、五十猛漁協の釣り、和江漁協、大田市漁協の小底 1 種、多伎町漁協の定置網、釣り、刺網による漁獲物を対象に調査を行った。測定は、尾叉長を計測するとともに、左右の鼻孔を観察した。鼻孔隔壁が認められる個体を鼻孔正常魚、鼻孔隔壁の欠損が認められる個体を鼻孔連結魚とした。

#### 水揚げ魚の年齢組成と放流魚の混獲状況

本海域の水揚げ魚の年齢組成は、昨年、一昨年に引き続き 2, 3 歳魚が主体で 4 歳魚以上が少ないのが特徴的であった。鼻孔連結魚の年齢組成を、放流時点における鼻孔連結魚の出現率で除して放流魚の年齢組成を推定した。放流魚の混獲率は 1.8% であった。

#### 放流魚の推定水揚げ重量と金額

平成 11 年 4 月から 12 年 3 月にかけての石見海域における、放流魚の水揚げ重量は 3,111kg、水揚げ金額は 311 万円であった。

### (2) ヒラメ

#### 放流実施状況

益田市沖で 54,541 尾、三隅町沖で 48,545 尾、浜田市沖で 39,567 尾、江津市沖で 36,606 尾、仁摩町沖で 78,262 尾、大田市沖で 60,641 尾、多伎町沖で 24,025 尾、湖陵町沖で 16,410 尾放流された。

#### 調査方法

益田市漁協の定置網、釣り、さし網、浜田市漁協の定置網、釣り、和江漁協、大田市漁協の小底 1 種、多伎町漁協の定置網、釣り、さし網による漁獲物を対象に調査を行った。調査は全長を計測するとともに無眼側の黒化状況を観察した。黒化が認められないものを無眼側色素正常魚、認められるものを無眼側黒化魚とした。

#### 放流魚の堆定水揚げ重量と金額

無眼側黒化魚を放流魚と考え平成 11 年 4 月から 12 年 4 月にかけての石見海域における放流魚の水揚げ重量と水揚げ金額を推定したところ、それぞれ 2,376kg、556 万円となった。